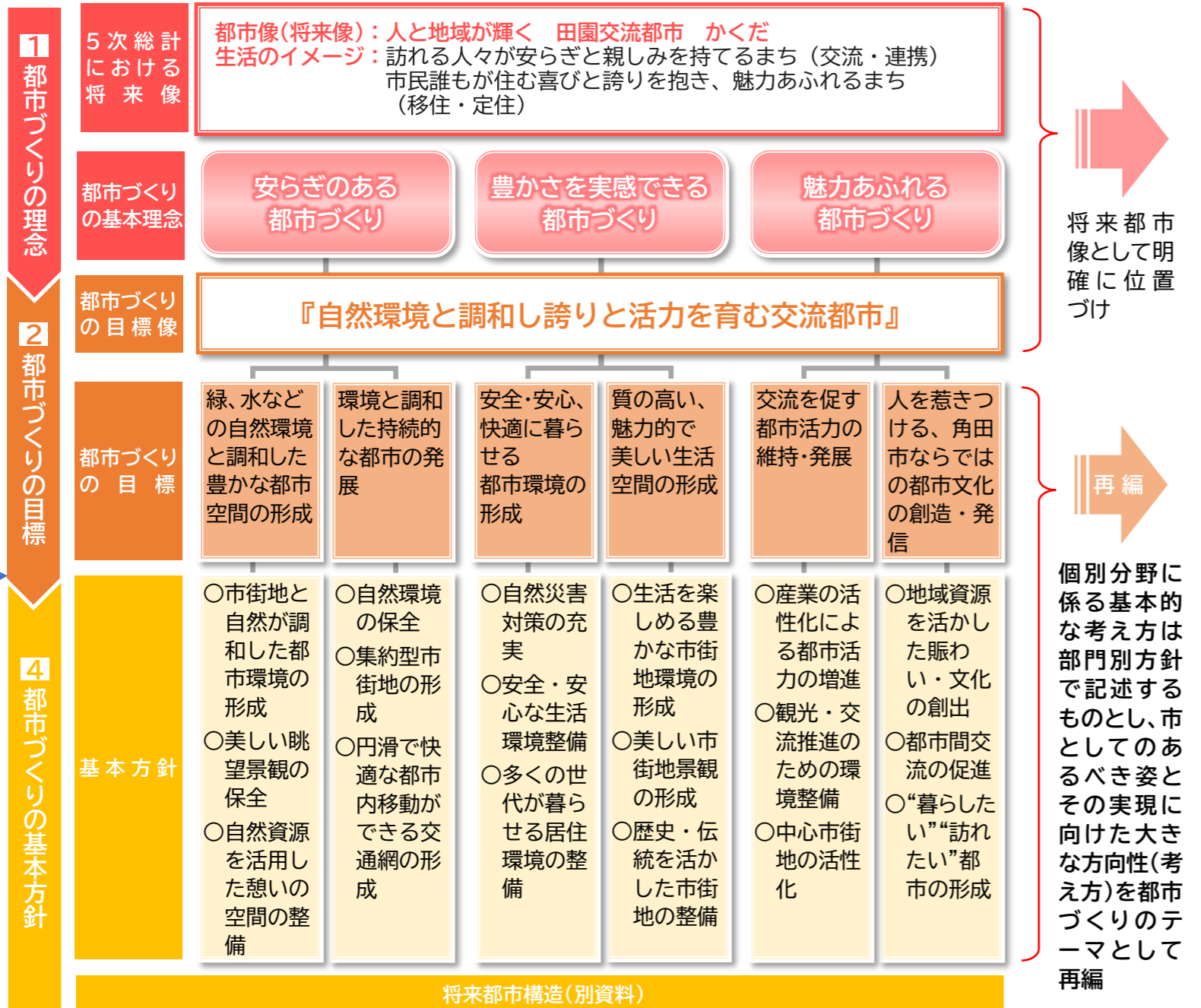


現行計画



**将来都市像**

市民力咲き誇る。角田市  
 安心して、いきいきと、誇らしく暮らせるまち

▽ 将来都市像は、本市の最上位計画となる「角田市第6次長期総合計画」で掲げられている10年後の都市像『市民力咲き誇る。角田市～安心して、いきいきと、誇らしく暮らせるまち～』を、本計画でも踏襲し、都市計画分野からその実現に向けた取組みを展開することにより、市全体で一貫性を持ったまちづくりを推進します。

▽ この都市像のもと、同計画において位置づけられた優先的に進める取り組みの方向性『市民力』『地域共生』『地域資源フル活用』を踏まえながら、具体的な方針・施策等について検討していきます。

▽ 将来都市像の実現を都市計画分野から支えていくために、主要課題や上位関連計画での位置づけ等を踏まえ、**人口減少・少子高齢社会の中でこれから本市が目指すべき都市の姿を「都市づくりのテーマ」として設定**します。

**誰もが安全・安心・快適に住み続けることができる都市づくり**

人口減少・少子高齢の進行が予想される本市においては、市の活力を維持し、発展させていくために必要となる人口規模を確保することが極めて重要となります。年齢や性別、障がいの有無などに関係なく、多くの人々が住みたい、住み続けたいと感じられるよう、生活利便性が高く、自然災害への備えも充実した、安全・安心で快適な都市づくりを目指します。

**拠点を核とした持続可能な都市づくり**

社会経済情勢の変化に伴う諸課題の解決に向けて、行財政改革を進める本市においては、市民サービスの質を確保しながら、都市経営に係るコストの効率化を実現していくことが求められます。市の顔であり市全体への波及効果が大きい中心市街地や、コミュニティ維持などへの寄与が期待される地域の中心部など、市の核となる各拠点の役割に応じた都市機能の誘導・再編について検討しながら、持続可能な都市づくりを目指します。

**多様な地域資源を活かした魅力的な都市づくり**

本市が将来に渡って維持・発展していくためには、居住地としてだけでなく、通勤・通学や買い物、スポーツ・レジャー、観光・交流など、市内外から多様な形で本市に関われる場を提供し、関係人口の創出・拡大を図っていくことが重要となります。本市が有する多様な地域資源や都市機能を活かしながら、市のにぎわいや活力の維持・創出に寄与する、魅力的な都市づくりを目指します。

**3 将来フレーム**

**将来の目標人口**

▽ 現行計画の将来の目標人口は、「角田市第5次長期総合計画」で示されている**2020(H32=R2)年の総人口フレーム**に準じて下記のように設定。

現行計画の目標年次 >>> 2020年 **30,000人** ⇔ 27,976人(国勢調査)

▽ 市街地(用途地域)の規模は原則現状維持、特に住宅系市街地は原則現状を維持し、都市機能の集約を図っていく。

土地利用	考え方
住宅系	・原則的に現在の住居系用途地域の規模を維持します。 ・住居系用途地域内への住宅の誘導を図ります。
商業系	・原則的に現在の商業系用途地域の規模を維持します。 ・商業系用途地域への商業の集積を図ります。
工業系	・工業系用途地域は、土地利用の現状を勘案した対応を図ります。

将来都市像として明確に位置づけ

再編

個別分野に係る基本的な考え方は部門別方針で記述するものとし、市としてのありべき姿とその実現に向けた大きな方向性(考え方)を都市づくりのテーマとして再編

将来フレーム

市で共通した将来人口の見通しとして位置づけ

▽ 将来人口について、将来都市像と同様に「角田市第6次長期総合計画」で示されている**将来人口も目標値との整合**を図ります。

**2033年(10年後) 24,725人**  
**2043年(20年後) 21,448人**

※総合計画における前後の目標人口を前提に、同割合で推移するものとして推計

市街地規模は設定しないものとします。大規模な土地利用転換を伴う計画やプロジェクトなどが動き出した時には、その時点での社会情勢などを踏まえ適宜検討します。

**【角田市第6次長期総合計画 将来推計人口目標】**